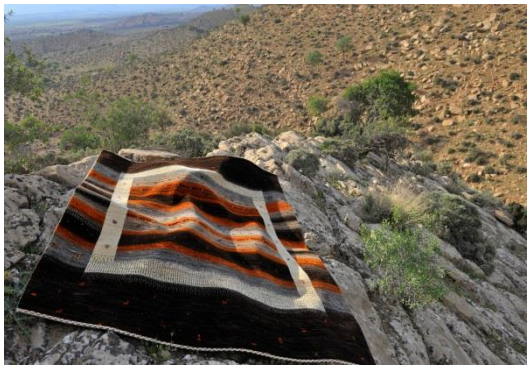
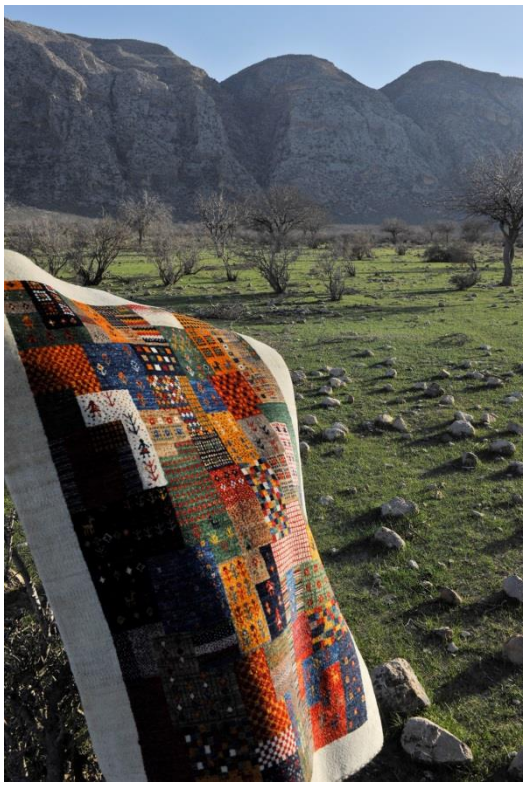
「ギャッベ」をめぐる風景

写真提供：高原アートギャラリー八ヶ岳



ザクロスの大地に置かれた「ギャッベ」。ある程度厚みのあるじゅうたんなので、昔は、直接、大地に置いて使っていた。

大きいサイズの「ギャッベ」を織るときは、３～４人が並んで織り進める。



たくさんの模様が織りこまれた「ギャッベ」。その一つひとつの模様に意味がある。

「ギャッベ」の織り手であるカシュガイ族の女性。イスラム教徒である女性たちは、家族以外の人の前では、スカーフのようなものでかみの毛をおおっている。

大きなサイズの「ギャッベ」はとても重い。運ぶときには、「ギャッベ」を巻(ま)いてかたにのせて運ぶ。

結婚式(けっこんしき)でおどる女性。変化の少ない生活の中で、結婚式(けっこんしき)はお祭りのようなもの。女性たちは輪になって、スカーフをふりながらおどる。